

## 第 4 章 鳥類調査

---

## 第4章. 鳥類調査

### 4-1. 鳥類調査の概要

#### 4-1-1. 調査日

夏季：令和4年8月9日

冬季：令和4年12月6日

#### 4-1-2. 調査地点

藪牟田池及びその周辺域に、ルートセンサス調査の踏査ルート3本（R-1～R-3）及び定点調査の定点観測地点3カ所（St.1～St.3）を設定した。

調査ルート及び定点観測地点の概要を表4-1-1に、調査ルート及び定点観測地点の位置を図4-1-1に示した。

表4-1-1 調査ルート及び定点観測地点の概要

調査方法	地点	調査地の概要
ルートセンサス	R-1	藪牟田池湖畔を一周するサイクリングロード沿いのルート（距離：3.0km）。 周辺環境は湿地、畑地、開放水域。
ルートセンサス	R-2	藪牟田池～飯盛山の道路沿いのルート（距離：1.5km）。 周辺環境はスギ・ヒノキ植林、常緑広葉樹林。
ルートセンサス	R-3	藪牟田池～竜石山の道路沿いのルート（距離1.6km）。 周辺環境は茶畑、スギ・ヒノキ植林、常緑広葉樹林。
定点調査	St.1	藪牟田池の開放水域全体が展望できる池の東側の展望台。
定点調査	St.2	藪牟田池の湿地が観察できる池の北側のサイクリングロード沿い。
定点調査	St.3	藪牟田池の湿地や池畔林、周辺の耕作地が観察できる池の西側のサイクリングロード沿い。

#### 4-1-3. 調査方法

藪牟田池一帯の鳥類相を把握するために以下の調査を行った。

##### (1) ルートセンサス調査

事前に設定したルートにおいて、早朝に時速約2kmで歩きながら、片側25m、両側50m以内で確認された鳥類の種類および個体数を記録した。なお、人為的に移入された種および調査時間以外に確認された種についても補完的に記録した。調査には倍率8倍の双眼鏡を用いた。

##### (2) 定点調査

調査地点において、30分間観察を行い、確認された鳥類の種類および個体数を記録した。なお、人為的に移入された種についても補完的に記録した。調査には倍率20倍の望遠鏡および倍率8倍の双眼鏡を用いた。

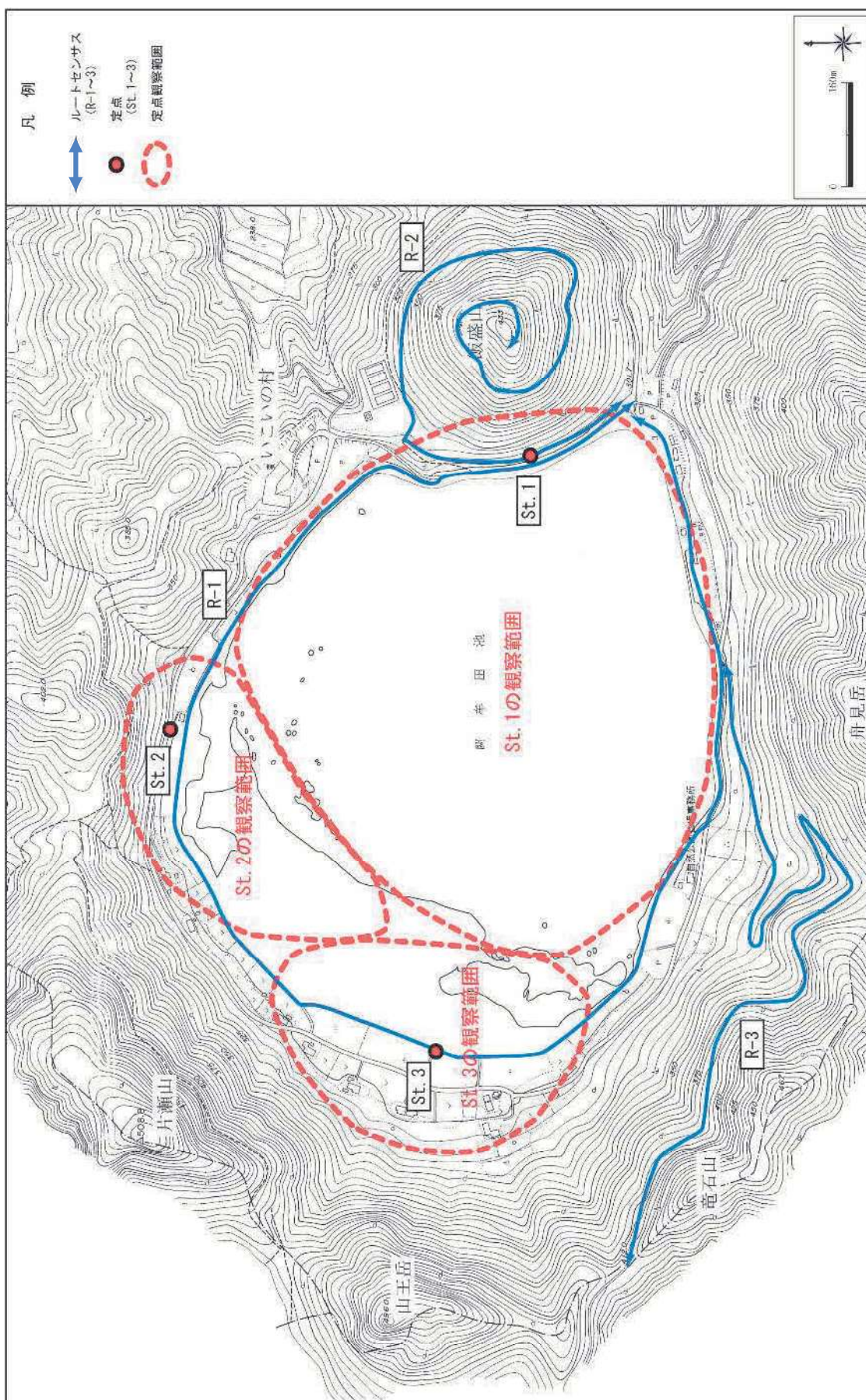


図 4-1-1 鳥類調査地点位置図

## 4-2. 鳥類調査の結果

令和4年度の現地調査の結果、藪牟田池全体で24科33種の野鳥及び2種の移入種（コブハクチョウ、アイガモ）を確認した（表4-2-1）。今回の調査において、保護上重要な鳥類は確認されなかった。

ルートセンサス調査では23科32種の野鳥及び2種の移入種を確認した。各ルートの季節別の出現種（移入種を除く）を比較すると、藪牟田池の池畔のルート（R-1）では、夏季にカルガモ、カワセミ、リュウキュウサンショウクイ、ツバメ、ヒヨドリ、スズメなど19種、冬季にヒドリガモ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、カイツブリ、カワウ、オオバン、チョウゲンボウ、モズ、カケス、シロハラ、ジョウビタキ、ホオジロなど28種を確認した。特に冬季にはヒドリガモ、マガモ、オナガガモ、オオバンなどの冬鳥が飛来したため、出現種数、個体数はともに大幅に増加した。

外輪山の東側にあたる飯盛山の登山ルート（R-2）では、夏季にコゲラ、シジュウカラ、エナガ、メジロ、ホオジロなど8種、冬季にはヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラの5種を確認した。

外輪山の西側にあたる竜石山のルート（R-3）では、夏季にコゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、カワラヒワ、ホオジロなど11種、冬季にコゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ジョウビタキ、ホオジロの8種を確認した。

定点調査では17科23種の野鳥を確認した。各定点の季節別の出現種（移入種を除く）を比較すると、開放水域が観察できる地点（St.1）では、夏季にキジバト、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、ツバメ、スズメなど9種、冬季にマガモ、カイツブリ、カワセミ、シロハラ、ジョウビタキなど8種を確認した。

同様に湿地が観察できる地点（St.2）では、夏季にカルガモ、アオサギ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリの7種、冬季にマガモ、カルガモ、カワウ、カワセミ、ヒヨドリ、ウグイス、シロハラ、ジョウビタキの8種を確認した。

湿地や池畔林、耕作地が観察できる地点（St.3）では、夏季にキジバト、アオゲラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、ホオジロの6種、冬季にキジバト、アオゲラ、モズ、カケス、ジョウビタキ、スズメなど9種を確認した。

比較対象である過年度調査結果として、平成29年度の調査結果を表4-2-2、平成28年度の調査結果を表4-2-3、平成18年度の調査結果を表4-2-4、現地調査及び文献調査で確認した鳥類を整理して表4-2-5に示す。

表 4-2-1 鳥類現地調査結果（令和4年度調査結果）

No	目名	科名	種名 <亜種名>	夏季						冬季						
				ルートセンサス			定 点			ルートセンサス			定 点			
				R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3	R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3	
1	キジ目	キジ科	コジユケイ	1												
2	カモ目	カモ科	ヒドリガモ							103						
3			マガモ	15						86			1	16		
4			カルガモ	11				2		2					20	
5			オナガガモ							9						
6	カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ							12			1			
7	ハト目	ハト科	キジバト	1			1		2	3					1	
8	カツオドリ目	ウ科	カワウ							1				1		
9	ペリカン目	サギ科	アオサギ					1								
10	ツル目	クイナ科	オオバン							1						
11	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	3			1			3			1	1		
12	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	1	2	2	1			1		2				
13			アオゲラ	2		1	1	1	2							1
14	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ							1						
15	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ <リュウキュウサンショウクイ>	1												
16		モズ科	モズ							2						1
17		カラス科	カケス							1						2
18			ハシボソガラス	5	1	3	2	2		6		4				5
19			ハシブトガラス	2		1		1		2		1				
20		シジュウカラ科	ヤマガラ	12			4	1								
21			シジュウカラ	3	1	8	1	1		3						
22		ツバメ科	ツバメ	6				3								
23		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	4	2	15			2	2	30	6	18	1	1	3
24		ウグイス科	ウグイス							3	2	1	2	2	1	
25		エナガ科	エナガ			4					23	5				
26		メジロ科	メジロ	6	2	6				4	3	4	18	11		
27		ヒタキ科	シロハラ								3	2		1	1	
28			ジョウビタキ								6		1	2	1	1
29	スズメ科	スズメ	12	1	2	2				8					1	
30	セキレイ科	キセキレイ								1						
31	アトリ科	アトリ								4						
32		カワラヒワ				13										
33	ホオジロ科	ホオジロ	9	2	1				1	13		1			1	
34	移入種 カモ目	カモ科	コブハクチョウ	3						3						
35			アイガモ	5							4					
個体数合計			689	102	15	56	13	10	14	336	18	47	20	42	16	
種数合計			11目 24科 35種	19	8	11	9	7	6	28	5	8	8	8	9	
				21			16			28			17			
				23						29						

注) 種名及び配列は、国土交通省(2022)「河川水辺の国勢調査のための生物リスト〔令和4年度版〕」に従った。

注) 数字は個体数を示す。

表 4-2-2 鳥類現地調査結果（平成 29 年度調査結果）

No	目名	科名	種名 < 亜種名 >	夏 季						冬 季						任意 調査		
				ルートセンサス			定 点			ルートセンサス			定 点					
				R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3	R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3			
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	3						1								
2	カモ目	カモ科	ヒドリガモ								149			4				
3			マガモ								99							
4			カルガモ	12							10							
5			オナガガモ								8							
6	ハト目	ハト科	キジバト	6		2	1			3						1		
7			アオバト								1							
8	カツオドリ目	ウ科	カワウ								1			2				
9	ペリカン目	サギ科	アオサギ				1	1										
10	ツル目	クイナ科	ヒクイナ								1							
11	チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ														5	
12	タカ目	タカ科	トビ								1							
13			ノスリ									1						
14	ブッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン				1											
15			カワセミ									1				1		
16	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	1	2								4					
17			アオゲラ		1	2						1						
18	スズメ目	モズ科	モズ	1											1			
19		カラス科	カケス	5														
20			ハシボソガラス	5	3	2	2	1	3	11	2	2		1	1			
21			ハシブトガラス		2								7					
22		シジュウカラ科	ヤマガラ			5						1	1					
23			シジュウカラ	1									1					
24		ツバメ科	ツバメ							1								
25		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	1	5	7	1		7	11	9	8		5	3			
26		ウグイス科	ウグイス	7	2	9	3	5	11	1	1	1		2				
27		エナガ科	エナガ										5					
28		メジロ科	メジロ									2	1	1	1	2		
29		ヒタキ科	シロハラ									2	3	2	1	1		
30			ジョウビタキ									4	1					1
31		スズメ科	スズメ	6						2	2						1	
32		セキレイ科	ハクセキレイ															10
33		アトリ科	カワラヒワ	1														
34			イカル		1							1						
35	ホオジロ科	ホオジロ	18	5	3		4	3	11	2	8				4			
36		カシラダカ								5						2		
37		アオジ								3	1	2						
38	移入種 カモ目	カモ科	コブハクチョウ				7				7							
39			アイガモ	5								6						
個体数合計			632	72	21	30	16	11	31	337	23	42	8	13	23	5		
種数合計			11目 23科 39種	14	8	7	7	4	8	22	11	12	4	7	8	1		
				18			11			29			15			1		
				22						32						1		

注) 種名及び配列は、国土交通省(2022)「河川水辺の国勢調査のための生物リスト〔令和4年度版〕」に従った。

注) 数字は個体数を示す。

表 4-2-3 鳥類現地調査結果（平成 28 年度調査結果）

No	目名	科名	種名 <亜種名>	夏季						冬季							
				ルートセンサス			定 点			ルートセンサス			定 点				
				R-1	R-2	R-3	St. 1	St. 2	St. 3	R-1	R-2	R-3	St. 1	St. 2	St. 3		
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	1	1		1										
2	カモ目	カモ科	ヒドリガモ							233			17				
3			マガモ							77				13			
4			カルガモ	4				2			12						
5			オナガガモ								28						
6	ハト目	ハト科	キジバト	5			1		2		1						
7			アオバト												1		
8	カツオドリ目	ウ科	カワウ							2							
9	ペリカン目	サギ科	アオサギ	3													
10			ダイサギ	1				1			1						
11	ツル目	クイナ科	オオバン							3				1			
12	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス				1										
13	チドリ目	シギ科	イソシギ											1			
14	タカ目	タカ科	トビ											2			
15	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ						1								
16	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	7	1	1			1		3		3				
17			アオゲラ	1	2	1	1			1							
18	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ								1						
19	スズメ目	モズ科	モズ								1						
20		カラス科	カケス								1						
21			ハシボソガラス	9	1	2	2	1	1	1		3		1	3		
22			ハシブトガラス	3	1	2	1					2	2				
23		シジュウカラ科	ヤマガラ		2	1					2		2				
24			シジュウカラ	6	3			1			2		3				
25		ツバメ科	ツバメ	4						5							
26		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	5	3	4			3		11	4	7	1	2	5	
27		ウグイス科	ウグイス	11	7	10	2	2	3	1				1			
28		エナガ科	エナガ										2				
29		メジロ科	メジロ			1					1	2			2		
30		ヒタキ科	シロハラ								1	2	3				
31			ジョウビタキ											1	1		
32		スズメ科	スズメ	16				2	1	2	10					3	
33		アトリ科	カワラヒワ			2											
34			イカル	1	5					2					1		
35		ホオジロ科	ホオジロ	11	2	6	1	1	3	4	1	3					
36			カシラダカ								5						
37			アオジ										6			1	
38		移入種 カモ目	カモ科	コブハクチョウ	9										8		
39				アイガモ	6				2							6	
個体数合計			725	103	29	29	15	13	19	400	12	35	35	23	12		
種数合計			13目 24科 39種	18	12	9	11	9	8	21	6	11	7	8	4		
				21			18			26			16				
				23						32							

注) 種名及び配列は、国土交通省(2022)「河川水辺の国勢調査のための生物リスト〔令和4年度版〕」に従った。

注) 数字は個体数を示す。

表 4-2-4 鳥類現地調査結果（平成 18 年度調査結果）

No	目名	科名	種名 < 亜種名 >	夏季						冬季						任意調査		
				ルートセンサス			定 点			ルートセンサス			定 点					
				R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3	R-1	R-2	R-3	St.1	St.2	St.3			
1	キジ目	キジ科	コジュケイ		1			1	1				1					
2	カモ目	カモ科	ヒドリガモ	4			4				279			197				
3			マガモ								153			397	105			
4			カルガモ	2										29				
5			オナガガモ									2			7	7		
6			コガモ													8		
7			スズガモ									1			3			
8			カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ										1	4		
9	ハト目	ハト科	キジバト	3		1			3							1		
10	カツオドリ目	ウ科	カワウ										1					
11	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	1							1							
12			ダイサギ												1			
13	ツル目	クイナ科	オオバン								2							
14	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス					1										
15	チドリ目	シギ科	ヤマシギ													1		
16	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ													1		
17	ブッポウソウ目	カワセミ科	カワセミ	1							1							
18	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	1		1												
19			アオゲラ			1			1									
20	スズメ目	モズ科	モズ								1					1		
21		カラス科	カケス	1		1												
22			ハシボソガラス	6								7						
23			ハシブトガラス			1	1		1	2		1		1	2			
24		シジュウカラ科	ヤマガラ			2					2							
25			シジュウカラ			1	6				2		2					
26		ツバメ科	ツバメ			1		1										
27		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	10	1	4	2		2	34	12	14		1	7			
28		ウグイス科	ウグイス	6	3	2	1		2	4	2			1				
29		エナガ科	エナガ							6		6						
30		メジロ科	メジロ			2	1			8	5	3		2				
31		ヒタキ科	トラツグミ			1												
32			シロハラ							1	2	4						
33			ジョウビタキ									1			1			
34		スズメ科	スズメ	19		4	2	5	1	6							30	
35		セキレイ科	ハクセキレイ								3						1	
36			ピンズイ								2							
37		アトリ科	カワラヒワ						2			8						
38		ホオジロ科	ホオジロ	15		3	1	3	1	17	5	1		1	12			
39			ミヤマホオジロ								8							
40	アオジ									6	4	8						
41	カモ目	カモ科	ガチョウ	1			1						1					
42			コブハクチョウ	24			42	5		48			38					
43			アイガモ	3			8	1		12			8					
44	ハト目	ハト科	カワラバト(ドバト)							1								
個体数合計				1786														
種数合計				13目 25科 44種	15	6	13	9	8	8	25	9	9	10	11	8	2	
					23			15			29			23			2	
					25						36						2	

注) 種名及び配列は、国土交通省(2022)「河川水辺の国勢調査のための生物リスト〔令和4年度版〕」に従った。  
 注) 数字は個体数を示す。



表 4-2-5 (1) 現地調査及び文献調査の結果

No	目名	科名	種名 <亜種名>	種の特性				現地調査	既存文献	文献番号	指定区分 ※3				
				移動 ※1	生息環境※2										
					A	B	C					D			
1	キジ目	キジ科	コジュケイ	留鳥	○			○	●	●	1, 3, 4, 5				
2			キジ	留鳥				○		●		2			
3	カモ目	カモ科	オシドリ	冬鳥			○			●	2	環DD, 鹿DD			
4			ヨシガモ	冬鳥			○				●	2			
5			ヒドリガモ	冬鳥			○			●	●	2, 3, 4, 5			
6			マガモ	冬鳥			○			●	●	1, 3, 4, 5			
7			カルガモ	留鳥					○		●	●	1, 3, 4, 5		
8			ハシビロガモ	冬鳥					○			●	2		
9			オナガガモ	冬鳥					○		●	●	3, 4, 5		
10			トモエガモ	冬鳥					○			●	2	環VU	
11			コガモ	冬鳥					○			●	1, 2, 3		
12			キンクロハジロ	冬鳥					○			●	2		
13			スズガモ	冬鳥					○			●	3		
14			カイツブリ目	カイツブリ科	カイツブリ	留鳥				○		●	●	1, 2, 3	
15					ハジロカイツブリ	冬鳥					○			●	2
16	ハト目	ハト科	キジバト	留鳥	○				●	●	1, 3, 4, 5				
17			アオバト	留鳥	○						●	●	2, 4, 5		
18	カツオドリ目	ウ科	カワウ	冬鳥			○		●	●	2, 3, 4, 5				
19			ウミウ	冬鳥				○			●	●	2		
20	ペリカン目	サギ科	ゴイサギ	留鳥	○		○				●	3			
21			アオサギ	留鳥						●	●	2, 4, 5			
22			ダイサギ	留鳥						○		●	3, 4		
23	ツル目	クイナ科	ヒクイナ	留鳥			○	○			●	5	環NT, 鹿II		
24			バン	留鳥				○				●	2		
25			オオバン	留鳥					○		●	●	3, 4		
26	カッコウ目	カッコウ科	ホトトギス	夏鳥	○						●	3, 4			
27	チドリ目	セイタカシギ科	セイタカシギ	旅鳥			○	○			●	5	環VU, 鹿II		
28		シギ科	ヤマシギ	冬鳥	○						●	3			
29		タンシギ	留鳥					○			●	2			
30		イソシギ	留鳥					○			●	4			
31	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	留鳥				○			●	3	環NT, 鹿準		
32		タカ科	トビ	留鳥				○	○		●	2, 4, 5			
33		チュウヒ	冬鳥					○			●	2	国内, 環EN, 鹿II		
34		ツミ	冬鳥	○				○			●	2	鹿DD		
35		ハイタカ	冬鳥	○							●	2	環NT, 鹿準		
36		サシバ	留鳥	○				○			●	2	環VU, 鹿II		
37		ノスリ	冬鳥	○				○			●	1, 2, 5			
38		フッポウソウ目	カワセミ科	アカショウビン	夏鳥	○						●	5		
39	カワセミ		留鳥				○		●	●	3, 4, 5				
40	ヤマセミ		留鳥				○				●	2			
41	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	留鳥	○				●	●	2, 3, 4, 5				
42			アオゲラ	留鳥	○					●	●	3, 4, 5			
43	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チョウゲンボウ	冬鳥			○	○		●	●	2, 4			
44	スズメ目	サンショウクイ科	サンショウクイ <リュウキュウサンショウクイ>	留鳥	○					●					
45		モズ科	モズ	留鳥	○			○		●	●	1, 3, 4, 5			
46		カラス科	カケス	留鳥	○					●	●	2, 3, 4, 5			
47			ミヤマガラス	冬鳥				○	○			●	2		
48			ハシボソガラス	留鳥					○	○	●	●	1, 3, 4, 5		
49			ハシブトガラス	留鳥					○	○	●	●	3, 4, 5		
50		クイタダキ科	クイタダキ	冬鳥	○						●	●	2		
51		シジュウカラ科	ヤマガラ	留鳥	○					●	●	3, 4, 5			
52			シジュウカラ	留鳥	○						●	●	1, 2, 3, 4, 5		
53		ツバメ科	ツバメ	夏鳥				○		●	●	3, 4, 5			
54		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥						●	●	1, 3, 4, 5			
55		ウグイス科	ウグイス	留鳥	○					●	●	1, 3, 4, 5			
56		エナガ科	エナガ	留鳥	○					●	●	1, 3, 4, 5			
57		メジロ科	メジロ	留鳥	○					●	●	1, 2, 3, 4, 5			
58		ヨシキリ科	オオヨシキリ	冬鳥				○			●	●	2		
59		ムクドリ科	コムクドリ	旅鳥	○						●	●	2		
60		ヒタキ科	トラツグミ	留鳥	○						●	●	3		
61	シロハラ		冬鳥	○						●	●	1, 3, 4, 5			
62	ツグミ		冬鳥	○							●	●	1		
63	ジョウビタキ		冬鳥					○		●	●	1, 3, 4, 5			
64	エゾビタキ		旅鳥	○							●	●	2		
65	スズメ科		スズメ	留鳥				○		●	●	1, 3, 4, 5			

表 4-2-5 (2) 現地調査及び文献調査の結果

No	目名	科名	種名 <亜種名>	種の特性				現地調査	既存文献	文献番号	指定区分 ※3			
				移動 ※1	生息環境※2									
					A	B	C					D		
66	スズメ目	セキレイ科	キセキレイ	留鳥			○		●	●	1			
67			ハクセキレイ	冬鳥			○			●	1, 3, 5			
68			ビンズイ	冬鳥	○			○		●	1, 3			
69			タヒバリ	冬鳥				○	○	●	1			
70		アトリ科	アトリ	冬鳥				○	●					
71			カワラヒワ	留鳥				○	●	●	1, 3, 4, 5			
72		ホオジロ科	イカル	留鳥	○					●	4, 5			
73			ホオジロ	留鳥		○		○	●	●	1, 2, 3, 4, 5			
74			カシラダカ	冬鳥	○					●	4, 5			
75			ミヤマホオジロ	冬鳥	○					●	1, 3			
76			アオジ	冬鳥	○					●	1, 3, 4, 5			
77		カモ目	カモ科	ガチョウ	-	-	-	-	-	●		3		
78				コブハクチョウ	-	-	-	-	-	●	●	3, 4, 5		
79				アイガモ	-	-	-	-	-	●	●	3, 4, 5		
80		ハト目	ハト科	カワラバト (ドバト)	-	-	-	-	-	●		3		
合 計														
14目 (野鳥)			32科 (野鳥)			80種 (野鳥+移入種)			32	1	37	21	35	78

※1移動：所崎 聡，山元幸夫(1999)鹿児島県産鳥類リスト．鹿児島県立博物館研究報告 18:21-42．を参考にして区分した。  
 留鳥：季節ごとの移動はせず，一年を通じて同じ地域に生息する種  
 夏鳥：春季に日本より南の地域から渡来して繁殖し，秋季には温暖な南の越冬鳥地へ渡る種  
 冬鳥：秋季に日本より北の地域から渡来して越冬鳥し，春季には北の地域へ渡り繁殖する種  
 旅鳥：春季と秋季の渡りの途中において日本に立ち寄り通過していく種

※2生息環境：鹿児島県愛護協会（1981）の生息環境区分を引用した。  
 A 森林 B 草原・原野 C 海岸・湖沼等 D 耕地周辺

※3保護上重要な種の抽出の基となる法律及び文献  
 ・絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（平成4年，法律75号）  
 ・鹿児島県編（2016）鹿児島県の絶滅のおそれのある野生動植物 動物編－鹿児島県レッドデータブック－，財団法人鹿児島県環境技術協会  
 ・環境省（2020）環境省報道発表資料 第4次レッドリストの公表について

（指定区分の凡例）  
 国内：絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律に国内希少野生動植物種として記載されている種  
 鹿Ⅱ：鹿児島県レッドデータブックに絶滅危惧Ⅱ類として記載されている種  
 鹿準：鹿児島県レッドデータブックに準絶滅危惧として記載されている種  
 鹿DD：鹿児島県レッドデータブックに情報不足として記載されている種  
 環EN：環境省レッドリストに絶滅危惧ⅠB類として記載されている種  
 環VU：環境省レッドリストに絶滅危惧Ⅱ類として記載されている種  
 環NT：環境省レッドリストに準絶滅危惧として記載されている種  
 環DD：環境省レッドリストに情報不足として記載されている種

<参考文献>  
 1 桑原一廣（1974）本県における生物・地学教材の研究 鹿児島県教育センター研究収録5(1):67-76  
 2 鹿児島県保健環境部保健管理課（1982）鹿児島県の野鳥．財団法人鹿児島県公害防止協会  
 3 薩摩川内市（2007）平成18年度蘭傘池環境調査業務委託報告書．財団法人 鹿児島県環境技術協会  
 4 薩摩川内市（2016）平成28年度蘭傘池環境調査業務委託報告書．株式会社 小園建設  
 5 薩摩川内市（2017）平成29年度蘭傘池環境調査業務委託報告書．株式会社 小園建設

## 4-3. 鳥類調査の考察

既存文献の収集・整理を行った結果、これまでに藺牟田池では14目31科74種（移入種は除く）の鳥類が確認されている。令和4年度の調査でリュウキュウサンショウクイ、アトリの2種を新たに確認し、これらを加えると藺牟田池一帯では14目32科76種（移入種は除く）の鳥類が確認されたことになる。経年変化（図4-3-1 青線）を見ると、確認種数は緩やかに減少している。今回の調査では、保護上重要な種は確認されなかった。

これまで確認した鳥類を鹿児島県産鳥類リスト（所崎・山元、1999）に基づいた生息区分にあてはめると、留鳥が38種、冬鳥が32種、夏鳥が3種、旅鳥が3種となった（移入種は除く）。藺牟田池一帯では、夏鳥の確認が少なく、冬鳥が多く確認されていることから、渡り鳥の繁殖地としての利用は少なく、越冬地としての利用が多いという特徴が見られる。

特に、冬鳥であるカモ類にとっては重要な越冬地となっている。藺牟田池で越冬するカモ類の個体数の経年変化を表4-3-1、図4-3-1（赤線）に示す。この結果から、藺牟田池で越冬するカモ類の個体数は、年々減少傾向にあるといえる。

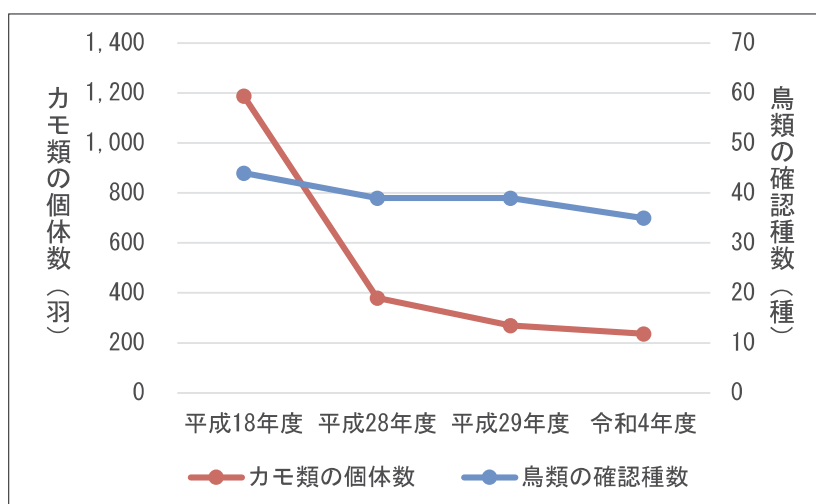


図4-3-1 鳥類の確認種数及びカモ類の個体数の経年変化

表4-3-1 カモ類の個体数の経年変化

種名	平成18年度	平成28年度	平成29年度	令和4年度
ヒドリガモ	476	250	153	103
マガモ	655	90	99	103
カルガモ	29	12	10	22
オナガガモ	16	28	8	9
コガモ	8	—	—	—
スズガモ	4	—	—	—
合計	1,188 個体	380 個体	270 個体	237 個体